

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 あやめが丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

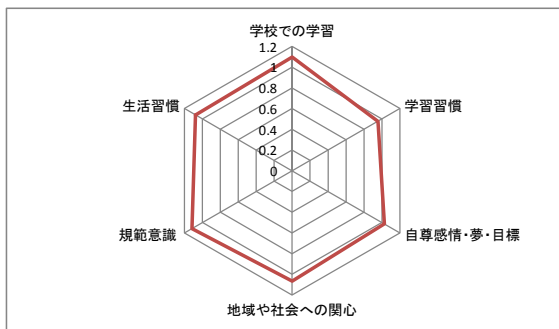
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	校内比は、昨年度を上回っている。すべての問題に対して、回答することができている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	問題に対して適切な情報を文の中から選択する問題、登場人物の心情について情景描写を基に捉える問題等	
	努力が必要な問題	文の中で漢字を使う問題	
国語B	全体的な傾向や特徴など	校内比は、昨年度を上回っている。すべての問題に対して、回答することができている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題等	
	努力が必要な問題	計画的に話し合うための司会の役割を捉える問題等	
算数A	全体的な傾向や特徴など	校内比は、昨年度を上回っている。すべての問題に対して、回答することができている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	円周率の意味を問う問題、百分率を求める問題、グラフから変化の特徴をとらえる問題等	
	努力が必要な問題	基本的な計算の間違いを防ぐ必要がある	
算数B	全体的な傾向や特徴など	校内比は、昨年度を上回っている。ほぼすべての問題に対して、回答することができている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	規則性の解釈と判断、図形の構成要素や性質を基に、「集まった角の大きさの和が360°」になっていることの記述問題等	
	努力が必要な問題	示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を表現する問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	ほぼすべての問題に対して、回答することができている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	実験結果を基に分析・考察し、より妥当な考えをつかってその内容を記述する問題	
	努力が必要な問題	骨と骨のつなぎ目についての科学的な言葉や概念の理解	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「学校での学習」については、話し合う活動で自分の考えを広げたり深めたりすると感じている割合が全国平均よりも高くなっている。 ・「学習習慣」については、全体として全国平均よりも低くなっている。宿題についてはほぼ100%の児童が毎日取り組んでいるものの、計画を立てての家庭学習については全国平均よりも低くなっている。 ・「自尊感情・夢・目標」については、「自分にはよいところがある。」「将来の夢や希望がある。」は全国平均に比べて高い。 ・「生活習慣」については、全体的には全国平均と比べて上回っているものの、「朝食を毎日食べている。」項目は下回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動による思考力・判断力・表現力等の育成の継続 特に、考えを書く活動の充実を目指す。 国語…基礎的な漢字学習の充実 算数…計算スキル 理科…概念や用語の定着
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の時間や内容、自主学習の取り組み方についての指導の継続 ・家庭学習のしおり、家庭学習チャレンジハンドブックの積極的な活用 ○望ましい生活習慣(朝食・ゲームをする時間等)の大切さを通信などで発信
